



↑ 神田 5 号館 1 階アクティブラウンジ B に展示



↑ 相馬永胤



↑ 田尻稲次郎



↑ 目賀田種太郎



↑ 駒井重格

企画展「専修大学をもっと知ろう ～神保町とともに歩んだ140年～」

新学期を迎えた4月5～16日の期間、新入生を含め学生たちに自らが学ぶ大学のことを知ってもらうために、企画展「専修大学をもっと知ろう～神保町とともに歩んだ140年～」が神田キャンパス5号館にて大学史資料室の主催で開催された。

1880（明治13）年9月、日本で初めて経済学と法学が日本語で学べる学校として銀座の地に創立した専修学校（専修大学の前身）は、5年後の1885（明治18）年に現在の神田キャンパスに校地を移転し、歴史を刻んできた。本展では、相馬永胤、田尻稲次郎、目賀田種太郎、駒井重格、4人の創立者の業績と、神田神保町の地で発展してきた専修大学の歩みを、写真パネルで振り返った。



↑ 1913（大正2）年7月に校名を専修学校から私立専修大学に改称。その頃の写真



← 法学部設置の翌年、1928（昭和3）年に竣工した神田旧校舎

教員が薦めるとっておきの一冊 図書館展示「読書の森」



↑ 神田 Knowledge Base

生田図書館本館と神田 Knowledge Base の一角に開設された「読書の森」では、教員が学生にお薦めする一冊が紹介文と共に展示されている。図書館長（廣瀬玲子文学部教授）は展示の挨拶文に、読書を通して私たちは、すでにこの世にいない人、異なる言語を話す人とも対話でき、それが「書物という魔法」だと記す。教員が推薦する本の中には、学生にとって難解なものもあるかもしれないが、背伸びして読んでみればかけがえのない一冊になるはず。図書館長の言葉を借りるなら、「時間をかけて、少しずつ親しんでいく——少しずつ仲よくなる友人のように」。展示は7月31日（土）まで。